

# 心つないで

No.46

発行

2012年10月27日

東日本大震災

ろっこう医療生協・対策本部〈本部長・金丸正樹〉

(ろっこう医療生協・本部内 TEL 078-802-3424)

## 2012秋期第4陣・伊田管理者(訪看あんず)と大倉職員(組合員活動支援部)の大船渡報告

○以下、第4陣メンバーの伊田管理者、大倉職員のレポートです。

### プレハブで理髪店を再開

### 「髪を切らなくても、ここで いっぱいお話ししていく人も」



・1年7か月も経つといろいろな条件格差が現れ、仮設住宅から出て行く人と行きたくても不可能な人たちが否応なく現実化しつつあります。

・10/24 小中井仮設住宅から元の理髪店の地に開店された女性を訪問。前方の港の周辺一帯はたくさんの家があったが全て流されたそう。馴染みの人たちから「いつ開くの?」「開いてほしい」と出会うたびに言われるのでプレハブを建て再開されました。【写真・上、左】「髪を切らなくても、ここでいっぱいお話を楽しんでいく人もいて、仮設で何もしないよりいい」と嬉しそうでした。

・まさにこれこそ、私たちも取り組んでいる「たまり場」かも。しかも苦しむ人びとの心の支えとなる場でしょう。



### ブリキ製の板張りの仮設も

・10/25 午前には下船渡(しもふなと)仮設住宅を訪問。ここはまさに応急と言うべき、板張りにブリキ板を打ち付けたような9世帯の仮設住宅で、小さな公園にひっそり建っていました。生活支援員は近くで家を失った22才の青年です。ある女性は、「娘が勤める東京の病院に1か月に1回通い、1回で5万円ほどかかる」と。【写真・下】



・10/25 大豆沢(おおまめざわ)仮設住宅を訪問。暖かく住みやすい建材の理想の仮設住宅と思われました。談話室で2人の男性から震災当日のお話を伺いました。「10数メートル以上突然立ち上る大波を間近に見て、必死に逃げた」と。【写真・上】

「十数メートルの大波から必死に逃げた」

よりよい募金、35万円に!

○「寄り添い募金」に組合員の振込みが毎日寄せられています。現在約35万円。目標まであと65万円です。

添えられたお言葉から。「きっと笑顔の日がやってきますよ」(灘区H様)、「お体に気をつけて」(灘区K様)「ご苦労様です。よろしくお願ひします」(東灘区K様)

○回収した健康調査票には、眠れない・何もする気がしない・肝臓や胃腸、くも膜下などの病気をかかえ病院通いをしている方が多いことが読み取れました。